

平成22年度 神奈川県立横浜翠嵐高等学校定時制 学校評価

学校目標：(1)個に応じた学習活動を支援する体制を築き、生徒の学びの意欲を高める。

取組の内容		校内評価	
具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善の方向等
① 観点別評価の推進、授業評価および研究授業の実施を通して、授業改善を図る。	○単元ごとの評価規準を明示したシラバスの作成状況及び観点別評価の改善状況	○シラバスを作成し、指導と評価の計画に基づいた授業の一層の推進に努めることができた。	○シラバスは年々改良を加えているが、指導計画の作成において、教科間の作成水準をさらに平準化する必要がある。
	○研究授業・校内研修の実施状況	○7月に実施した第1回授業評価に基づき、9月に改善目標を明確にした研究授業を全教科で実施した。	○全教員による研究授業を実施し、事後の講評会を行った。次年度はさらに充実した講評会にし、相互批評を通して授業改善を図ってきたい。
	○生徒の関心を惹きつける授業作り及び生徒が集中して授業に臨めるように環境改善ができたか	○生徒による授業評価の結果もふまえながら、授業内容、教材の研究につとめた。	○観点別評価は定期的に校内研修を実施して、評価方法の検証をしていくとともに、各教科内で評価方法の精緻化を図ることが必要である。
②外部講師を積極的に活用し、授業の活性化を図る。	○授業活性化支援事業の実施教科及び回数。	○各学年ごとに外部講師による進学講話・職業講話を実施した。10月に全学年対象の職業講話を実施して、生徒の進路に対する意識を高めることができた。	○早い時期に生徒の進路に対する取り組みがスタートできるよう、各講話・講演会の実施時期を若干早めるなどの工夫をしたい。
③学校外の単位認定制の積極的な活用により、生徒の学びのニーズに応える。	○学校外の単位認定制度の活用状況	○4月と6月に説明会を開催した。学校外の単位認定制度により、のべ37名の生徒が合計142単位の単位認定を受けた。	○卒業に必要な単位を学校外の単位認定制度により修得できることを周知する。
④長期休業期間中に個別学習指導を実施する。	○個別学習指導の実施状況。	○夏季休業期間中に基礎学力を養成するための希望対象の補習と対象生徒を決めた補習の両方を行うことができた。 (国語、地歴・公民、数学、理科、英語)	○生徒の参加も昨年よりは向上したが参加率が良いとはいえない。来年度は基礎学力養成のためには指名補習や発展的な補習を増やしたい。
⑤履修・修得状況を正確に把握し、履修指導を的確に実施する。	○履修指導が的確に実施できたか	○9月に成績個人カードを使って来年度の履修準備調査を実施し、年度末に本調査を実施した。	○成績処理支援システムで同様の調査ができるかどうか研究する。
	○卒業率、進級率が上昇したか	○僅かではあるが、卒業率、進級率は上昇した。	○さらに改善できるよう、きめ細かな対応を行いたい。

学校目標：(2)生徒の実状に即した進路指導の推進を図る。

取組の内容		校内評価	
具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善の方向等
①進路指導室を整備し、個に応じた進路相談の推進を図る。	○進路資料の充実および生徒が資料を閲覧しやすい環境が図れたか   T機器の利用状況	○進路補助教員に常駐してもらい、多くの生徒の利用があった。また、パソコン等による進学や就職情報の収集を行った。	○更なる周知への努力を行い、現状を超える生徒の利用を図りたい。
	○年間進路指導計画・進路指導資料の作成状況及び個に応じた進路相談の実施状況	○進路希望調査により生徒の進路希望を把握し、個に応じた進路指導を行った。結果として進学・就職共に昨年を上回った。	○自らが積極的に進路を開拓しようとする意識をさらに育てていきたい。また進学希望者に対する教科指導体制の確立を図る。
②総合的な学習の時間を中心としたキャリア教育全体の充実を図る。	○キャリア教育実践プログラムに沿って生徒一人ひとりの勤労観・職業観の育成が図れたか	○職場見学、上級学校見学等の実施をとおり、具体的な勤労観・職業観の育成ができた。	○職場見学・上級学校見学の実施時期や形態について、より効果的に実施できるよう見直しを図る。
	○進路未定者の割合が減少したか	○進路未定者の割合は、前年比1割程度減少した。	○さらなる取組を行う。
	○OB等を講師に招いた社会人講演会の実施状況	○「職業講話」「OB講演会」については各学年で実施。	○現状を維持したい。
③校外の就業体験学習【インターンシップ】を実施する。	○大学や専門学校から講師を招いた進路希望別説明会が実施できたか	○全学年で分野別説明会を実施した。	○上級学年ではさらに細かく分野分けをし、より具体的な内容にしたい。
	○就業体験学習が効果的に実施できたか	○夏期休業中の「インターンシップ」の参加者は6名で昨年の14名に比べて半減した。	○「インターンシップ」の本来の目的が単位の修得ではなく就業体験であることを周知し、積極的な参加を呼びかける。

学校目標：(3)多様化する生徒の相互理解と相互支援の視点に立った学校づくりを推進する。

取組の内容		校内評価	
具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善の方向等
①機能的かつ効果的な教育相談体制および生活指導体制の構築を図る。	○校内及び学校周辺の定期的な巡回を実施し、問題行動の事前防止が図れたか。	○全職員による学校周辺の巡回を実施した。	○巡回指導については、今後も全職員の協力の下、継続して取り組んでいきたい。
	○特別指導の件数が減少したか。	○効果的な生活指導が実施できるよう、問題行動指導カードを導入するとともに、生徒指導内規を変更した。特別指導では、必要に応じてSCとも連携した。	○効果的な生活指導を実施できるよう、更なる生活指導体制の充実を図りたい。また、特別指導の件数を減少させるべく、問題行動の予防に力点を置いた指導を行う。
	○ロッカーや下駄箱の施錠を徹底し、貴重品の自己管理及び盗難防止が図れたか。	○ロッカー及び下駄箱の施錠については指導を強化したが、徹底できない面もあった。貴重品の自己管理を繰り返して指導したが、徹底はできなかった。	○ロッカー及び下駄箱の施錠については継続して指導を行っていく。また、鍵が開けにくいことも施錠の不徹底の一因であるので、新入生については、鍵を開けやすい物に変更したい。貴重品の自己管理についても、指導をより強化していきたい。
	○校内組織、SC及び関係機関と連携した生徒相談体制の整備状況と生徒相談研修・事例研究協議の開催状況。	○生徒情報交換会は、前後期各1回実施し、SCの指導をもとに、情報を共有化した。	○最低限、今年度と同様の体制の維持につとめ、さらに工夫と改善をめざす。
②日本語を母語としない生徒の支援体制の充実を図る。	○日本語を母語としない生徒の個別面談及び外国籍生徒の交流プログラムを実施できたか。	○外国籍生徒の指導に関する連絡会議は、6回開催することができ、指導にあたって効果があった。 ・保護者面談などで、必要な保護者について通訳を活用した。 ・夏季休業中の日本語講習を実施できた。	○連絡会議を月1回定期開催する予定だったが、開催できなかった。会議の内容も含め、工夫と改善につとめたい。 ・昨年度にくらべ、留年・退学する生徒はやや減少したが、必修科目の単位を修得できない生徒が出てしまうなど、課題も残した。 ・通訳の予算が不足気味で、特に保護者面談の時は、日程の調整も含め、対応に苦慮した。
	○配慮を必要とする生徒の情報交換会が年2回実施できたか。	○情報交換会を年2回実施できた。また、1年を中心にケース会議を行い、難しい生徒指導上の問題に関して、関係職員と管理職とで情報交換をしつつ指導にあたるようにした。 ・児相、区役所、ハローワーク、医療機関等と連携しながら指導にあたった生徒もあった。	○ケース会議を引き続き行いたい。対象とした生徒が、休学や長欠になりがちなので配慮したい。 ・外部との連携を担任だけでなく、担当グループとしても情報を共有し、外部機関との連携を努めたい。
	○健康診断の受診の徹底化を図れたか	○年間計画を立て、通常清掃、大掃除を実施することができた。	○清掃実施だけではなく、ごみの分別や極力ごみを出さないなど、資源節約等、常に周囲の美化を心がけ、環境問題を意識する姿勢の育成が今後の課題である。
④教科外活動を充実し、魅力ある学校生活を提供する。	○生徒総会、各種委員会において、議事運営を生徒自身が行えるよう支援できたか。	○生徒会本部役員及び各種委員会、生徒総会等の活動を効果的に支援し、生徒会活動を活性化させることができた。	○今後も、生徒会活動を活性化させるため、生徒会本部役員及び各種委員会、生徒総会等の活動を効果的に支援していく。
	○各種講演会、芸術鑑賞会、スポーツ行事及び部活動の実施状況	○遠足や文化祭、芸術鑑賞会、映画鑑賞教室、球技大会やスケート教室等のスポーツ的行事等、生徒会主催行事の企画・立案・運営を適切に行い、これらの行事を円滑に実施することができた。	○遠足、芸術鑑賞会、スポーツ的行事等の生徒会主催行事を円滑に実施できるよう、今後も企画・立案・運営を適切に行う。
	○生徒が部活動をとおりて充実した学校生活を送れるよう、適切な支援を行うことができた。陸上部・バドミントン部・バスケットボール部が全国大会へ出場した。	○生徒が部活動をとおりて充実した学校生活を送れるよう、適切な支援を行うことができた。陸上部・バドミントン部・バスケットボール部が全国大会へ出場した。	○生徒が部活動をとおりて充実した学校生活を送れるよう、更なる支援を行っていく。
	○健康診断の受診の徹底化を図れたか	○日程を事前に連絡し、各検診の意義・目的・内容などの事前指導を行うとともに、個別に生徒に連絡するなどにより粘り強く受診を促した。	○健康診断の意義を理解させ、自ら進んで受診するよう多面的に工夫し、働きかけて、受診率のより一層の改善を図る。